

特別養護老人ホームにおける高齢透析患者の飲食制限

社会福祉法人照善会 こくら庵

○小森優也、酒匂智和子、福本 駿、山崎美菜、吉永弘子、小松利恵子、
船越 哲

【背景】

特養入所は『在宅』の考え方であるため、入所透析患者に対する飲食制限においては様々な配慮が必要となってくる。

【目的】

2011年7月開所の当ホームの入所透析患者に対する飲食制限、特に水分制限へのアプローチを検討する。

【対象・方法】

当ホームの入所者29名のうち血液透析患者は26名で、入所の時点で中1日の透析間平均体重増加が5%以上の6名を対象とした。全員が認知症を有していたため、水分制限へのアプローチ法は、(1) 家族への状況説明、(2) 介護スタッフの水分制限に関する言動統一、とした。

【結果】

当初家族からは「せっかく老人ホームに入ったのに」、「好きなものを飲み食いさせてやれなくて可哀そう」などの声が聞かれたが、体重増加が結局は透析中の血圧降下などに繋がることを説明し、水分制限の必要性を理解してもらった。介護スタッフで言動を統一し、患者にストレスを与えないよう留意しながら水分制限を促したところ、3ヶ月後には入所当時の平均体重増加6.3%から3.9%に減少し、透析中の血圧降下の頻度も減った。

【考案】

家族に飲水過多（体重増加）は患者の苦痛に繋がることを明確に理解してもらうことが第一であり、加えて患者に対してはスタッフの言動統一が効果的と思われた。